

換気し花茎の伸長抑制

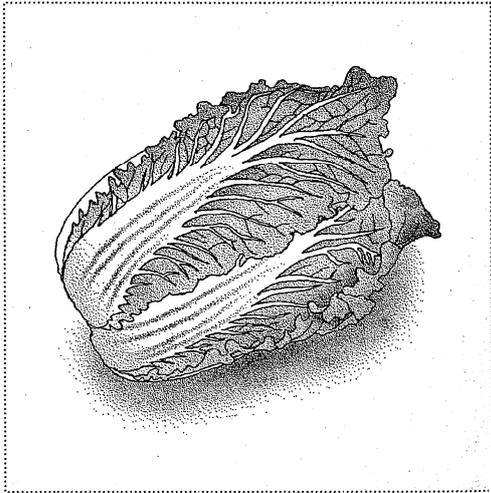
—— 鮫島 國親



漢字で白菜と書くように、以前は結球部分の白い品種が一般的でした。最近は球内部の黄色い品種が多く出回るようになり、漬物のほかに煮物、いため物、鍋物など幅広く利用されます。水分が多く、食物繊維、ビタミンC、カリウム、カルシウム、鉄分などを多く含んでいます。

耐寒性は強いですが、10度以下の低温に一定期間遭遇すると花芽ができ、その後の高温でとう立ちを起こします。このため、冬春まき栽培では低温を避ける工夫が必要です。今回はとう立ちの遅い晩抽性品種を利用した、比較的作りやすい冬まきのトンネル栽培（ハウス無加温育苗）を紹介します。

発芽適温は18-22度、生育適温は20度前後で冷涼な気候を好みます。土壌は弱酸性-中性が適しています。ほ場は水はけを良くしましょう。育苗はハウス内で小型ポット育苗又はセル成型苗育苗（72-128穴）します。市販の育苗用土を利用すると便利です。12月上旬に種をまき、1カ月くらい育苗して本葉三枚で定植します。



本ぼには1平方メートル当たり苦土石灰100g²、堆肥2kg³、化学肥料150g²（三要素15%の場合）を目安として施します。定植の1週間前に透明ポリでマルチして、ビニールまたはPOフィルムをトンネル被覆します。栽植密度はうね幅130cm²（トンネル幅100cm²）、条間50cm²、株間35-40cm²の二条植えとします。定植後20-30日間はトンネルを密閉して活着を促しましょう。その後トンネルを開閉して日中20-30度で管理します。

生育後半はハクサイのしん部にある花茎の伸長を抑制するために換気を十分に行いましょう。収穫は定植後2カ月くらいでできます。頭部を手で押して締まった感じの時が適期です。収穫が遅れると花茎が伸びすぎます。収穫期が近づいたら試しに抜き取って花茎の長さ（5cm²以下が望ましい）を確かめると良いでしょう。なお、晩抽性品種を用いない場合は、加温育苗が必要になるなど、栽培法が異なるので、注意が必要です。

（鹿児島県農業開発総合センター副所長）

平成19年11月8日（木）／南日本新聞